

吉田財団設立40周年記念事業

令和7年度 教材活用状況報告書

公益財団法人吉田学術教育振興会
理事長 山倉修一殿

学校名	福岡県立田主丸特別支援学校
学校長名	大石 千加
報告者	末次 有紀子
寄贈品	1.フロッカーセット 2セット
《振り返り》	
教育的課題	1.スポーツ大会(たぬしんピック)の競技種目として、フロアカーリングを行うことにした。大会に向けてレクリエーション活動や体育等の授業で、フロアカーリングの練習に取り組むことができた。
教材活用の狙い	1.投げ方を考えながらターゲットを狙ってフロッカーを押し出したり、力を調整して補助具を引っ張ったりなど、自分にできる方法で活動に取り組むことができた。
目的達成の為の工夫	1.車椅子に座ったまま投球できるような傾斜台を作り活用した。また児童生徒の実態に合わせてルールを検討し、学校独自のルールを用いて、スポーツ大会を行うことにした。
《教材活用の効果・成果》	
活用状況及び、教育的課題の解決状況	1.夏季休業中に職員が実際にやってみて、フロッカーの重さや投げ方を確かめ、本校独自ルールの検討を行った。また、傾斜台を制作した。 2.2学期以降、全校集会のレクリエーション活動においてフロアカーリングを行い、児童生徒が実際に投げてみる体験を行った。 3.2学期末からスポーツ大会(たぬしんピック)に向けて、各学部や各学級で体育や自立活動の時間等に練習を行った。 4.児童生徒にとっては初めての競技ではあるが、ルールはボッチャに似ているため、練習等混乱することなく取り組むことができた。投球の仕方や投球距離、傾斜台の置き方など児童生徒が自分で考えたり、力を調整したりして楽しみながら活動に取り組むことができた。また教師は児童生徒に合った補助具を作成した。
対象者・利用頻度	1.全校生徒、体育や自立活動の授業等で10時間程度、全校集会でのレクリエーション、年1回のスポーツ大会(事前練習2時間)

目的達成状況	1.本校独自ルールの周知を行い、各自練習に取り組んでいる。スポーツ大会に向けて投げる順番を決めたり、チームの仲間と一緒に練習したりと普段関わりの少ない他学部の友達とも関わりながら活動している。
教育的効果についての所見等	投げ方や距離を自分なりに工夫したり、教師と一緒に投げたりして児童生徒それぞれが自分にできる方法で競技に取り組もうとする姿が見られた。競技を通して友達と関わる場に参加することができた。

活用状況の写真等(当日の様子など)

スポーツ大会は2月6日実施予定。

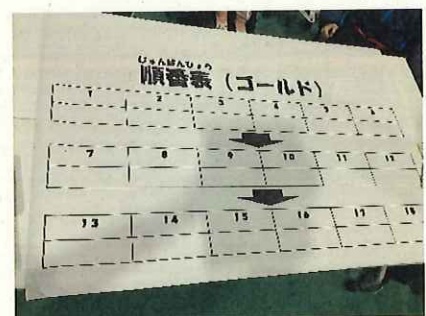


傾斜台：車椅子に座ったまま、投球することができる。フロッカーの幅に合わせて制作。フロッカーがよく滑るので、勢いを抑えるためセラピーマットを敷きつめている。

事前学習：チームごとに話し合い、順番決めを行った。縦割りのチームなので普段関わりの少ない他学部の児童生徒が関わる機会になった。



学校独自ルール：
ターゲットを狙うのではなく、的に向かって投球する。
的の中心にいくほど点数が高い。



今後の活用見通し・課題

次年度以降は本校独自ルール以外にも、正式ルールで行ってみたい、新たな補助具を作成したりして、児童生徒が自分のできる方法を見つけ、楽しく体を動かしながら活動できるようにしたい。